



地域に親しもう

副校長 神田 雄二

「神無月(かんなづき)」は、日本における旧暦10月の別称。この時期は、年間を通じて学習や運動、また、読書や自然観察などにも適した季節です。ということは、活動すべてに最適ということです。

ところで、なぜ10月は「神無月」と呼ばれるのでしょうか。そのまま文字を読み解くと、「神様のいない月」と読めます。それは10月、日本中の神様が島根県の出雲大社に集まるとされているからです。ですから、出雲以外の日本各地から神様がいなくなってしまうといわれています。反対に、神様が集まってくる出雲地方では、この10月を何と呼んでいるのかというと、本来の「神無月」としたいところですが、日本中の神様が集まるので、出雲地方だけは、「神無月」と反対の「神在月(かみありづき)」と呼ばれているそうです。この地方では、この時期刃物を使わないという言い伝えがあったそうです。それは、姿の见えない神様が家のどこを通るか分からないため、誤って神様を傷つけないよう包丁などを使わなかったとか。

地域によって言い方が変わるものの他、私たちが普段何気なく使っている言葉も方言という形で変化しています。

コロナ禍で、旅行や観光など遠出がなかなかできない今は、その土地その土地で変化している言葉や文化を再発見する良い機会なのではと思っています。学区を散策し、その土地の文化に触れることで、住んでいる地域を好きになるきっかけとなればと思っています。



爽やかな空気で活動しやすい秋になってきたことから、「私たちのまち、洋光台」ならではの貴重な文化や地域の催し物など、他の地域とは違う自慢したくなることを発見してほしいです。ぜひ、自分の足で見つけ、自分の目で確かめることで楽しい時間を過ごしてほしいと思います。

最後になりますが、朝晩の涼しさから秋の深まりを感じています。分散登校中ではありますが、子どもたちは校庭で体育をしたり休み時間に走り回ったりして、とても気持ちよさそうです。

コロナ対応をしながらの生活も長くなりました。必要なこととはいえ、様々なことに気配りしながらの生活は子どもたちにとって大変なことには違いありません。たてわり活動で、いろいろな学年の人と思いっきり遊んだり、学習の交流をしたりできないこと。人との距離を保ち交流すること。様々な制約がある中での生活ですが、それを逆手に取り、今できることの中から楽しむ心を持ち続けたいです。